

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	02	総務費	01	総務管理費	11	市民憲章推進費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—			目標値	—		
中事業	12	主要な取り組み	—								
小事業	03	平和活動事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	世界では、未だに戦争や紛争により多くの人命や財産が奪われ、改めて平和の尊さが再認識されている。戦争体験者が高齢化してきている今、1人でも多くの若者が平和への思いを受け継ぐことは、未来へ続く平和につながるものとして重要である。					
事業目的	(1) 対象 市民及び西中、東中、双葉中、美濃加茂中の生徒 (2) 目的 平和推進活動として、講演会の開催、長崎市青少年ピースフォーラムへの中学生派遣、広報等での啓発により、世界恒久平和と核兵器のない世界の実現を願い、市民の平和意識の高揚を図ることで、戦争のない恒久平和が達成され、平和で住みやすい美濃加茂市とする。					
事業概要	○平和活動事業の実施 ・平和講演会を開催し、広く市民に平和意識の高揚を図る。 ・長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」へ市内の中学生を派遣し、若い時期から平和の尊さを学んでもらうとともに、その参加体験を講演会の場などで周知することを通じ、広く市民に平和意識の高揚を図る。 ・平和首長会議（H24～）及び日本非核宣言自治体協議会（H28～）への加盟により平和活動事業を推進する。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	956	836	936	978	939
	決算額	60	30	803	207	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		100 / 0				

アウト プット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	長崎市青少年ピースフォーラム参加者数 (人)	目標値	8	8	8	8	8
		実績値	0	0	8	0	

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	平和意識を高める平和講演会参加者数 (人)	目標値	120	120	120	120	120
		実績値	0	0	0	0	



実 績	実 績	・悪天候による平和祈念式典縮小のため、派遣中止
	効 果	悪天候により現地への派遣はできなかったが、派遣生は事前学習を行うなど平和についての思いを持つことができた。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	悪天候による平和祈念式典縮小のため、派遣中止
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	悪天候による平和祈念式典縮小のため、派遣中止
	実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き長崎市青少年ピースフォーラムへの派遣を行う。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費	04	図書館費		
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—					目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	21	中央図書館資料等整備事業		目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条 図書館の奉仕 を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。				
	事業目的	(1) 対象 市民、図書館利用者 (2) 目的 資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。				
	事業概要	あらゆる興味に対応できるよう、特に中央図書館では地域に根差した図書館であることを目指しているため、郷土・地域資料を収集する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,787	5,841	5,769	5,820	5,854
		決算額	5,787	5,792	5,764	5,820
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		32 / 1,167				

実績

実績	来館者数： 50,528人 貸出冊数：100,330冊 蔵書冊数：148,386冊 (北部分室含む)
効果	図書館資料の充実を図り、生涯学習活動を支援できるような市民サービスに努めたことで、市民満足度調査（R6）では好きな公共施設1位となった。



評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	年間受入冊数が変動しない中、昨年よりも除籍件数が増えたため実績数が除伸びた。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	図書館運営方針に基づき、市民の生涯学習活動を支援するため図書館資料をフル活用し市民サービスに努めたことで目標値が達成できた。
実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き図書館資料を充実させ、活用することで市民の学習意欲や図書館の本来の目的である市民サービスの充実に努める。 予算は維持しつつ、除籍をすることで蔵書の更新に努める。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	蔵書更新率（％） (年間受入冊数＋年間除籍冊数)/ 前年度末蔵書数	目標値	4.5	5	5	5
		実績値	4.5	2.7	2.5	3.9



アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数（冊）	目標値	100000	100000	100000	100000
		実績値	61552	95180	103636	100330

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費	04	図書館費		
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—				目標値	—		
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	22	東図書館資料等整備事業		目標年度	令和6年度							



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 市民、図書館利用者 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。				
	事業概要	あらゆる市民の利用を考え、読書バリアフリー（DAISY、多言語など）にも対応できるように資料を揃える。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,561	5,535	5,442	5,496	5,502
	決算額	5,551	5,532	5,440	5,225	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	290 / 666				

実
績

実 績	来館者数： 83,670人 貸出冊数：134,757冊 蔵書冊数：105,519冊
効 果	図書館資料の充実を図り、生涯学習活動を支援できるような市民サービスに努めたことで、市民満足度調査（R4）では好きな公共施設1位となった。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	図書購入は例年通りできたが、前年度までの除籍作業により書架に余裕ができ、除籍数が減ったため。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	目標値に達成していないが、昨年よりも貸出が増えている。図書館運営方針に基づき、市民の生涯学習活動を支援するため図書館資料を様々なテーマで展示を行うことで、あらゆるジャンルの本をみてもらうことができた。
実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き図書館資料を充実させ、活用することで市民の学習意欲や図書館の本来の目的である市民サービスの充実に努める。 予算は維持しつつ、除籍をすることで蔵書の更新に努める



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	蔵書更新率(%) (年間受入冊数+年間除籍冊数)/ 前年度蔵書数	目標値	6.4	6.4	6.5	6.5
		実績値	6.5	4.5	4.3	4.7



アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数〔図書のみ〕（冊）	目標値	160000	160000	160000	160000
		実績値	80175	113888	131190	134757

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費		04	図書館費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—					目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	23	図書館利用促進事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕における学校教育の援助、家庭教育の向上に資するためのサービスを提供することが求められている。 障害者差別解消法、読書バリアフリー法のもとに、合理的配慮がされた資料の購入が必要である。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 市民、図書館利用者 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 利用しやすい図書館を目指し、結果利用者の増加となる。				
	事業概要	図書館運営の全般にわたる事務経費 研修やイベントを開催し、刺激のある図書館が市民の健康寿命の一助となる。 絵本を介して親子のふれあいを大切にするブックスタートを行い将来的に読み聞かせの継続を目指す。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,184	2,454	2,268	2,162	2,150
	決算額	1,963	2,172	2,082	2,052	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	98 / 642				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	中央図書館・東図書館及び北部分室の展示の回数（回）	目標値	55	55	55	55
		実績値	96	185	166	138

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	中央図書館・東図書館及び北部分室の貸出冊数（冊）	目標値	260000	260000	260000	
		実績値	141727	209068	234826	235087



実 績	実 績	来館者数：134,198人 中央：49,892人 東：83,670人 北部：636人 展示の回数 中央：85回 東：48回 北部：5回 施設貸出件数 東図書館視聴覚ホール 104件 会議室274件 和室 64件
	効 果	令和４年度市民満足度調査：好きな公共施設では１位となる。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	季節や社会情勢に合わせた展示をタイムリーに行い展示を数多く行うことで、市民サービスにつながるよう職員が意識したため。コロナ緩和後の影響で緩やかに利用者が戻ってきているので、R6年度から目標値を150に上方修正する。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	目標値には達していないが、新型コロナウイルス感染症の影響下から脱して着実に貸出しが増えている。 より事業目的に沿った指標とするため、R6年度以降は「中央図書館・東図書館及び北部分室の来館者数（人）」に変更する。
	実績からR06年度の事業の方向性	令和5年度事業を継続し、本の魅力が伝わる棚づくりとテーマ展示を行うこととする。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費		05	社会教育費		05	文化振興費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—					目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—									
小事業	24	文化活動推進事業		目標年度	令和6年度							

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	市民の芸術文化及び社会教育の振興と福祉の増進を図っていくため、文化だけではなく市民の交流の場、活動の場としてのかもへのカラーが求められる。 会場のキャパもあり参加者を大きく増やすことはできないが参加者の満足度を高めることで施設設置の目的を達成する。					
事業目的	(1) 対象 子どもから高齢者までの幅広い各年代層の市民 (2) 目的 市民がグループやサークルで交流することにより、コミュニケーションや地域活動の活発化を促し、文化会館を拠点として、地域社会を結びつけることを目的とする。					
事業概要	交流の場として、一人一人が生き生きとした活動の場や発表する環境を提供し、市民活動が活発に行われ市民参加を促進する。 主な事業 ・市民交流の輪が広がる事業 (ダンスフェスタ、バンドフェスタ、ドリームコンサート、木曾川和音会等) ・市民参加の活動を広げる文芸事業 (文芸祭、書き初め展等) ・音楽にふれる文化事業 (文化会館講座等)					
事業費(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,059	7,695	8,524	8,089	12,195
	決算額	1,339	2,507	5,624	5,416	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		2,214 / 3,768				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	音楽普及事業（ドリームコンサート）への来場者数	目標値	2000	2000	300	500	500
		実績値	0	2327	473	665	

アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	事業の満足度（ドリームコンサート）	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	0	81.5	74.5	82.6	



実
績

実績	文芸祭応募点数実績 1,087点 ドリームコンサート入場者 653人 // アンケート満足度 4.0(82.6%) ダンスフェスタ 20組617人出演 入場者1,490人 バンドフェスタ 10組 40人出演 入場者 278人 和音会(和室利用促進事業) 3回開催 入場者数82人 カルチャー講座 3講座開催 参加者数26名 ピアノ開放DAY 3回開催 83組 212人 書初め展 応募点数162点 公文協アートキャラバン事業 入場者数149人
効果	文化会館は施設の維持管理に多額の費用が必要な施設であり、市民をはじめ多くの人々に利用いただくことで、費用対効果を発揮するものである。 よって、貸館だけではなく事業展開は重要なツールであり、年10回開催するドリームコンサートを指標として用いている。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍が過ぎアーティスト、来場者ともに活動が活発化してきた結果、来場者が上昇した。
KPI分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	満足度については出演者が翌年度まで申込が入る状況で、全体レベルが上昇し、来場者の評価も高くなってきている。
実績からR06年度の事業の方向性	コロナ禍、施設改修前のように自主事業を展開(ただし、事業費予算が必要)し、多くの市民に文化芸術を感じ、心豊かな市民生活に寄与していく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	04300000	市民協働部　ひとづくり			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費		05	社会教育費		04	図書館費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—						目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—										
小事業	25	図書システム広域利用事業（定住）		目標年度	令和6年度								

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	・ 図書を管理するシステムの維持、運営に使用するIT機器の更新には費用がかかり ます。統合することでコストをおさえる。 ・ 資料購入費の維持も難しくなっている。システムを一元化することで、同じ本の 購入を避けて幅広いジャンルの図書を購入することができる。 ・ ネットワークを活用した市民サービスを推進し、利用できる館の選択を増やし図 書館を身近なものにする。（美濃加茂市と坂祝町は図書館システム広域利用を2011 年から実施している） ・ すばらしい発見が図書館にはあるのに、利用したことがない、馴染みがない、本 好きが行くところなど図書館のことを知られていない。もっと利用を増やすため にも、蔵書の充実や魅力のあるイベントの企画が必要である。					
事業目的	（１）対象 美濃加茂市と坂祝町の図書館及び利用者 （２）目的 利便性が高まり図書館の利用が増えることにより、読書普及はもとより情報の拡散 、人の交流が活発になる					
事業概要	事務経費の軽減を図るとともに、利用者がより身近に図書館を利用できる環境を整 備するために、美濃加茂市立図書館・坂祝町中央公民館図書室が、図書資料及び図 書館機器等、図書館運営の全般を共同運用する。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,009	5,921	5,550	5,261	18,088
	決算額	5,673	5,919	5,549	5,260	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		227 / 441				

アウト プット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	新着図書情報交換、展示資料一覧 交換を行う（件）	目標値		61	80	130	130
		実績値		122	139	132	

アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	貸出冊数（冊） ※美濃加茂市で坂祝町民が借りた 冊数＋坂祝町で美濃加茂市民が借 りた冊数（個人利用）	目標値		14860	15120	15190	15220
		実績値		15408	15866	16059	



実 績	実績	取組①スマホの利用者カード運用開始。ネット予約登録をしている人がスマホ等でWEB利用者カードを提示し、図書館資料を借りることができるもの。 取組②定住イベントのオマールえびさんはとても好評だった。 『大道芸人オマールえび 絵本×大道芸ライブ』 5月6日【午前（坂祝町）】104名 【午後（美濃加茂市）】150名
	効果	坂祝町民のネット予約が少しずつ利用が増え始めている。購入予算の少ない坂祝ですが、美濃加茂市の新刊で棚に並んでいる本でも自宅から予約し、坂祝町で貸出ができるので便利。図書室利用につながっている。オマールえびさんをきっかけに絵本に入りこめるきっかけになった。普段図書館に来ない人が図書館に来て、本も借りてくれた。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	定期的な新刊本の購入にともないそれぞれの館の新刊情報を紙面にして利用者に提供したり、お互いの館の図書館通信を交換し、それぞれの館の利用者に閲覧、配布することで、新着図書の情報やイベント情報をより多くの利用者に周知できた。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	坂祝町での美濃加茂市民の利用が少し増えた。 ・美濃加茂市で坂祝町民が借りた個人貸出冊数、人数 3月末 →冊数：11,132冊、人数：2,840人（内訳：中央2,291人、東548人、北部1人） ・坂祝町で美濃加茂市民が借りた個人貸出冊数、人数 →冊数：4,927冊、人数：1,130人（R4）冊数：4,610冊、人数：1,022人 坂祝町の利用が増えた要因について、坂祝町の新着図書（新刊）が一定期間、坂祝図書室のみでの貸出対応のため、または人口が増えている加茂野地区の利用者が地理的に近い坂祝町を利用されるのではと考える。
	実績からR06年度の事業の方向性	R5年度と同様継続する。 現在坂祝町の新刊は2カ月間坂祝町での利用に限定、美濃加茂市への予約配送はしないことになっているがところを見直し美濃加茂市と同じルールで検討する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	09	教育費	05	社会教育費	01	社会教育総務費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—				目標値	—	
中事業	13	主要な取り組み	—								
小事業	26	生涯学習情報誌等の共同事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	圏域の活性化を図るには、魅力的な人づくり・地域づくりが必要であり、そこへつなげる生涯学習活動は重要な役割を担っている。そのため、多様で豊富な学習機会を圏域住民に提供できるよう、また、効果的・効率的に事業を推進できるよう、広域での生涯学習情報誌発行やホームページ運営に取り組んでいる。広域での取り組み以前は、市町村ごとに講座情報を提供し、参加者も住民に限定されることが多かった。そのため、講座メニューの広がりがなく、住民の生涯学習機会は限られ、住民の学習欲求を満たしているとは言えない状況であった。また、情報提供は紙媒体が中心で、情報が届くまでに時間と手間がかかるうえ、多くの方が手軽に情報入手できる手段が必要である。				
	事業目的	(1) 対象 定住自立圏圏域の住民（市民） (2) 目的 住民の学習環境整備が進み、学習機会が充実することによって、住民の学習欲求が満たされる。 また、学習を通じた住民の交流が進む。				
	事業概要	圏域住民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、圏域の各市町村で開催される講座情報をまとめて掲載した生涯学習情報誌「学びのとびら」を発行する。また、若い世代を含めた多くの住民が手軽に生涯学習情報を入手できるよう、専用のホームページによる情報提供もおこなう。ホームページには、圏域市町村の講座情報のほかサークルや生涯学習関連施設の情報なども掲載し、希望する情報を簡単に検索することができる。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	2,543	2,580	2,580	2,126	2,308
	決算額	1,295	1,788	1,654	1,782	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	101 / 10				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	定住自立圏域共同開設講座開講率（％）	目標値	90	90	90	90
	実績値	52	78	82	86	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	定住自立圏域共同開設講座受講者数（人）	目標値	2000	2000	2000	2500
	実績値	728	1822	2442	2395	



実
績

実績	○R5.9 25号発行（ 4,800部：美濃加茂・坂祝・八百津） ○R6.3 26号を発行（ 12,300部：美濃加茂・坂祝・川辺・富加・七宗・八百津・白川・東白川） ○生涯学習HP訪問ユーザー延べ件数 3,459件 ○開講数 256講座
効果	各市町村がコロナ禍より多くの講座を企画実施し、住民に機会を提供した。また、その情報を冊子やHPを通して住民に提供することができた。自治体によっては、自身の広報媒体（各戸配布ipadなど）に情報誌データを提供するなど、紙媒体だけではない周知方法を検討し実践できた。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	市町村を超えて参加者があり、連続して昨年度よりも高い開講率となった。コロナ禍がひと段落付き、定住自立圏内の住民の「学びたい」「始めたい」という意欲の更なる高まりと同時にとそれに沿った事業展開ができていく。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮して、令和4年度以降の目標値を下方修正していたが、講座開講率の上昇に伴い2年度連続して目標を上回ることができた。令和4年度評価書に記載したとおり、令和5年度も成果指標が目標を超えたため目標値を上方修正する。今の目標値が2000人。コロナ禍直前が3000名以上の受講者があり、そこを目指したいがまずはその中間の2500人を目指す。
実績からR06年度の事業の方向性	企画の仕組みとして、市民が自ら企画する講座も多いため、講座の内容を100%コントロールすることはできないが、講師とコミュニケーションをとりながら住民の希望を伝えていく。また全体の参加者（受講希望者）を増やすことで、開講率も上がると予想されるので、目をとめていただく広報や参加者上昇にも努める。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり		
大事業	61	6つのまちづくり宣言	—	款項目	02	総務費	01	総務管理費	12	諸費	
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	—			目標値	—		
中事業	15	主要な取り組み	—								
小事業	01	人権教育・啓発事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	人権問題自体が複雑で多義にわたり、とても難しい。人権啓発活動で多くの市民に知ってもらふ必要がある。
	事業目的	(1) 対象 市民 (2) 目的 「思いやりの心」にあふれた、人を大切にするまちづくりを目的とする。
	事業概要	・美濃加茂市人権施策推進指針に基づく活動 ・人権擁護委員の活動補助 ・人権啓発活動(各種イベント・人権週間等)
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	565 653 765 553 554
	決算額	483 568 729 553
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	403 / 0

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	人権啓発活動実施数 (回)	目標値	5	5	5	5	5
		実績値	2	7	4	5	

アウト カム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	この地域は人権が尊重されている とアンケートで答えた率 (%)	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	53.8	56.4	50	48.9	



実 績	実績	・人権電話相談の周知(ホームページ、広報など) ・人権相談所の開設(人権擁護委員) 特設相談(年6回)委員延べ32人 ・中学生人権啓発作文の募集 応募数275点 ・保育園人権啓発活動(10月27日)2園 ・人権街頭啓発(6月5日、12月4日)委員延べ16人
	効果	人権電話相談の周知(ホームページ、広報)、特設人権相談(年6回)、 中学生人権作文の募集、保育園啓発活動(2か所)、人権街頭啓発(6月 ・12月)などの啓発活動を行い、人権擁護活動の周知を行った。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	予定通り人権相談や啓発活動を行うことができた。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	昨年度の50%から1%低下しているもののほぼ現状維持となっている。 啓発活動は行うものの、直接接することのできる市民の数は限られており、 市民満足度調査ではその人によって受け取り方が違ってくるため「地域 で人権が尊重されている」という数値を上げることはかなり困難である。
	実績からR06年度の 事業の方向性	人権擁護委員による人権啓発活動だけでなく男女共同参画等の事業も含め て、人権に関連する発信を行っていく。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費
		目指す姿	01	総務管理費	07
中事業	15	主要な取り組み	K P I	—	目標値
小事業	05	男女共同参画推進事業	目標年度	令和6年度	—

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	令和2年度から第3次みのかも男女共同参画基本計画をスタート。近年では女性の就業率が増加しつつあり、管理職や指導的地位への登用、意思決定の場への女性の登用など、女性の社会進出への支援が進んでいるが、それに伴い子育ての環境の整備、介護等の支援の充実などが、より課題として挙げられるようになっている。				
	事業目的	(1) 対象 市民、家庭、地域、職場 (2) 目的 男女共同参画基本計画に掲げる事業の実施 すべての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できるような男女共同参画社会の実現				
	事業概要	国の「男女共同参画社会基本法」が掲げる理念を踏まえ、みのかも男女共同参画基本計画を策定し、計画に基づいた各事業を推進する。（啓発活動は定住自立圏事業で行う） ・みのかも男女共同参画基本計画（平成15年3月）策定 ・第2次みのかも男女共同参画基本計画（平成22年3月）策定 ・第3次みのかも男女共同参画基本計画（令和2年3月）策定				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	217	209	180	159	231
	決算額	4	68	61	142	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	20 / 0				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	男女共同参画推進委員・市民からの 計画推進に関する意見聴取 (回)	目標値	3	2	2	2	2
		実績値	1	2	2	2	

アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	地域活動の場での男女が平等である と考える市民の割合 (%) ※R11年度目標値40.0%	目標値	27	24	26	28	30
		実績値	31.9	27.9	22.9	26.9	

実 績	実績	電話相談の周知（ホームページや広報など） 男女共同参画ブックフェアの開催 男女共同参画推進委員会委員からの意見聴取
	効果	ブックフェアや講演会を行うことで、地域活動の場での男女平等と感じる市民の割合が増加した。

評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	ブックフェアと講演会を実施し、参加者等から意見聴取をすることができた。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	ブックフェアや講演会を行うことで、男女共同参画の意識が増し、地域活動の場での男女平等と感じる市民の割合が昨年度より増加したが、令和2年度の数値と比較して割合は減少しており、現時点では持ち直しつつある状況である。この数年の落ち込みは、コロナ禍の影響で地域活動自体が衰退していることや啓発活動が縮小傾向にあったことも原因の一つと考えられる。
	実績からR06年度の事業の方向性	男女共同参画基本計画の中間見直しを進め、SNS等を活用した、より効果的な啓発活動の方法について検討する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04300000	市民協働部	ひとづくり
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	02	総務費	01
		目指す姿			総務管理費	07
中事業	15	主要な取り組み	K P I	—	目標値	—
小事業	18	男女共同参画推進事業（定住）	目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を目指すため、これまで継続して啓発を実施してきたが、依然としてある「性別によって役割分担を決めつけがちな意識」や「DV等の問題」に加え、「性的少数者や性の多様性への配慮」に対する視点も必要であることの発信も必要となっている。また、男女共同参画の考え方は日々刻々と更新されていくため、現状を踏まえた啓発活動を実施していくための情報収集や知識向上が必要である。				
	事業目的	(1) 対象 定住自立圏域住民、市町村職員 (2) 目的 性別によって役割を決めつけない考え方の人を増やすことに繋げる。				
	事業概要	・講座、講演会、勉強会等、男女共同参画意識の向上を目的とした事業を実施する。 対象：定住自立圏域市町村職員 ・男女共同参画意識の向上を目的とした事業を企画し、啓発活動を行う。 対象：定住自立圏域住民 ・LGBT等に配慮した文書や環境に関する情報を共有し、改善に繋げる。 対象：定住自立圏域市町村職員				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	460	400	400	400	400
	決算額	20	30	37	215	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	48 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	企画講座・講演会等の数（回）	目標値	2	2	2	2
	実績値	1	2	2	2	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	男女共同参画を認識している人の割合（参加者アンケート）（％）	目標値	77	77.5	78	78.5
	実績値	78.69	75.6	82.4		



実
績

実 績	6月の男女共同参画週間にあわせて広報誌へ無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）や男性相談・L G B T Q相談窓口等の情報を掲載し、男女共同参画ブックフェアを開催した。今年度は新たに定住自立圏域住民及び市町村職員向けの講演会を企画し、圏域外の市町村住民12名を含む183名の方の参加があった。参加者内訳：美濃加茂市12名、坂祝町14名、富加町8名、川辺町17名、七宗町17名、八百津町121名、白川町1名、東白川村8名、当日9名
効 果	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）についての広報誌への記事掲載により、男女共同参画社会について考えるきっかけとなり、男女間コミュニケーションに関する講演会を実施したことで、半数以上の方に男女共同参画社会への知識が深まったとの意見をもらうことができた。ブックフェアや講演会にあわせてアンケートを実施することで、固定的な性別役割分担意識の解消を促す効果が表れてきた。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	今年度の圏域住民及び職員を対象とした講演会については、男女間コミュニケーションの研究を長年続けている講師を東京から招いて八百津町ファミリーセンターで実施した。講演会の内容については、先生が執筆した書籍を読めばわかるなど、一部不満の声もあったが、6割以上の方に満足いただけた内容であった。（3割はどちらでもない、約1割は不満）令和3年度からはじまった男女共同参画意識の啓発を目的としたブックフェアについては、男女共同参画週間などの市町村の事情にあわせてアンケートパネルや書籍の展示をした。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	ブックフェア回答数：360 インターネット回答数：5 男女共同参画の意識啓発を図ることを狙いとし、ブックフェアや講演会でアンケートを実施した。Webによるアンケートよりもパネルアンケート等を実施することで同時に男女共同参画社会への意識啓発が計れ、実績値が上昇したものと分析できる。
実績からR06年度の事業の方向性	令和3年度から始まったブックフェアや、勉強会・講演会を実施するなどして、住民及び職員への意識啓発ができるような事業を行っていく。